

トピックス

■【大阪・淀屋橋】淀屋橋にツインビル建設へ 御堂筋の「顔」へ

5月30日、大阪市は大阪市中心部を南北に貫くメインストリート・御堂筋の淀屋橋駅周辺に、オフィスや商業施設などを備えた高さ130m超、地上28階建ての高層複合ビル2棟を建設する案を発表した。ツインビルが建設されるのは、御堂筋と土佐堀川が交差するエリアの南側の東西の角地。東側(面積3,900㎡)では京阪電気鉄道と日本土地建物が高さ150m、西側(同7,200㎡)は大和ハウス工業や住友商事、住友生命保険など11社が高さ135mのビルをそれぞれ共同開発する。事業費は東側は公表されておらず、西側が668億円を見込むという。東側は創業支援施設やビル内部に吹き抜け空間を設置するほか、地上に広場を設けたり、地下道を拡幅する。西側は貸会議室や屋上庭園のほか、ビルを取り巻く回路やイベントが開ける広場も設置。北側の大川町公園を改修して水辺の賑わい空間を創出する。

淀屋橋以南の御堂筋はイチョウ並木で知られる市のシンボリックな存在で、ツインビルは周辺景観と調和した形で開発が進められる見通し。完成は2025年の大阪・関西万博に合わせ、2024~2025年を見込んでいる。

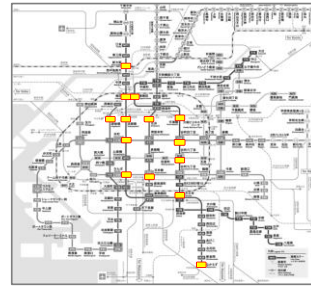


■【OsakaMetro】ネットワークビジョン、単駅デジタルサイネージ発売開始

△OsakaMetroネットワークビジョン

- ・駅数⇒14駅
(新大阪、梅田、淀屋橋、本町、なんば、天王寺、東梅田、天満橋、谷町四丁目、谷町九丁目、肥後橋、北浜、日本橋、なかもず)
- ・面数⇒249面
- ・媒体仕様:6分ロール15秒/1枠 (1週間放映)
- ・広告料金⇒¥1,400,000
- ・放映開始日⇒10月21日
(8月12日:5駅/72面、9月16日:9駅/149面)

▼ネットワークセット路線図



▼天王寺(15本39面)



▲東梅田(14本28面)

■【叡山電鉄】「七夕伝車」運行開始

叡山電鉄株式会社では7月1日(月)~8月15日(木)の間、七夕にちなんだイベントとして、「七夕伝車(たなばたでんしゃ)」を運行する。七夕伝車は、800系電車(2両1編成)に期間限定のヘッドマークを掲出し、車内では一般から募集した願い事の短冊を飾って運行し、期間終了後は七夕にゆかりの深い貴船神社へ奉納されるという。

また、期間中の土曜・休日ダイヤ実施日には、「青もみじライトアップ」を実施。鞍馬線市原駅~二ノ瀬駅間の「もみじトンネル」をライトアップし、この区間を通過する列車は車内の明かりを消してゆっくりと走る。ライトに照らされた青もみじは涼しげな雰囲気を感じさせ、夏夜のひとときを楽しむことが出来る。願い事の応募は駅などで配布されるパンフレットの短冊を使用。参加費は不要で、出町柳駅(京都市左京区)の「七夕伝車 願い事応募箱」で8月12日(月・祝)まで受付がされる。

さらに期間中の8月3日には現在鞍馬駅などで開催中の「悠久の風~南部風鈴によせて~」の運動企画として、星空観望会「悠久の夜空」を初めて開催。星のソムリエ(星空案内人)の解説のもと、スター・ウィークでもあるこの期間中に、七夕伝説や宮沢賢治「銀河鉄道の夜」をイメージした星座の話の織り交ぜながら、天体望遠鏡で夏の夜空を観測するという。

■【大阪・天王寺】ハルカス一帯回遊性磨く

近鉄百貨店は2019~2020年度、天王寺のあべのハルカス近鉄本店と周辺の商業施設を改装する。本店は化粧品売り場を2割ほど広げ、10店舗を新規にオープンする。同社が運営する本店周辺の商業施設「あべのand(アンド)」と、「Hoop(フープ)」も改装する。総投資額は30億円。天王寺・阿倍野エリア全体を活性化し、さらに訪日客を呼び込む。フープの地下一階を改装し、お酒とアジアの料理を楽しめるレストラン10店舗を今秋にもオープンする。あべのandには高級スーパーの成城石井で販売する食材やお酒をその場で味わえるタイプのスーパーを開く。飲食機能を強化して、百貨店から両施設への訪日客の流れを作り出す狙いがある。あべのハルカス近鉄本店の2018年度の訪日客売上高は220億円で、2017年度比約5割増と大きく伸びた。周辺施設も含めた改装でエリアの魅力を高め、集客の拡大を目指すハルカス本店の2020年度の訪日客売上高を260億円程度に増やす。近隣の観光施設などと組んだ観光パスポートの発行も計画する。通天閣や大阪城のほか、周辺の美術館などに参画を呼びかける。ハルカスの展望台なども含めた参画施設の入場料割引や記念品のプレゼントなどの得点を検討。エリアの回遊性を促したい考えだ。

▼「あべのハルカス」

▼「あべのHoop」

▼「あべのand」



▼(上)あべのハルカス/(中央)Hoop/(下)あべのand

